



手にいれゆる「労働組合風」の進行を頭に描いていたのは、何を隠そう私自身でした。そして、私は、「みんな『フィルターバブル』って聞いたことあるかな？」と続けました。ネット上の買い物や閲覧記録から、お勧めの商品、サービス、他の人はこんなものを買っている、と自分好みの情報が次々に手元に届けられてきます。探し物をいち早く見つける、比較するなどには助かる機能です。

一方、現代を生きる私たちは、まるで一人ひとり泡

で覆われてしまい、自分にとって「耳障りの良い情報」しか届いていない。これを「フィルターバブル」と呼ぶのだそう。知らず知らず、そうした環境に置かれていることを私たちが「自覚」しているかどうかは大事なことです。何故なら、そうした社会は自分とは「異なる意見」を遠ざけるだけでなく、最終的に「他者への興味」さえも減衰させかねません。

「好きな色は何？」は、確かに、相当程度、唐突でした。目の前の私になんらかの興味を抱いてくれた証と考えるのは、いささかこじつけが過ぎるでしょうか。ただ、彼の一言は、会場の温かい雰囲気をつくっただけでなく、私の引き出しから「他者への興味」の大事さを引っ張り出し、彼と私の2人のやり取りにとどまらず、その場の全員の

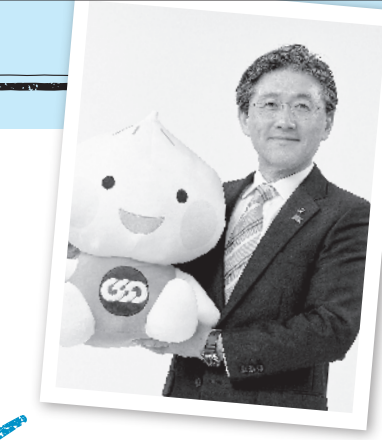
知見へとつなげてくれました。私はこれを「社会対話」、社会を良くする対話の一つにあげたいと思います。

### ユースへの期待。膨らむ。

フリートーカーのその後の展開は、AI/ITと働き方、社会保障と若年層の負担、定年延長と働き方、拡大する外国人労働者など、建設的意見が出るわ出るわ。

「職場の声に、責任を持って対応する。」これはいつの時代も忘れてはならない労働組合組織の原型。同時に、決して責任回避ではなく、質問者と回答者の関係を超えて、「みんなで答えを探します」という、「建設的な社会対話」に挑戦する重要性を改めて考えさせられたフリートーカーとなりました。感謝です。頑張れ！ユース。

## 相原事務局長の ナチュラル Natural Note



vol. 8

### 好きな色は何ですか？

#### 年齢にかかわらず

昨春秋より連合結成30周年を祝う様々な催しが開催されてきました。地方連合会の記念式典、記念レセプションでは、多数の会場でご挨拶の機会を頂きました。いずれの会場でも私は、「日本の高度成長期において最も合理的とされた働き方は、若い、健康な、男性、正社員が、長時間働くモデル。だが、それは過去のもの。いや、過去のものとしなくてはならない。」「これからは、年齢、性別、障がい、国籍、雇用形態にかかわらず、一人ひとりがより照らされ、照らされた個性の重なり合いに新たな進歩のエネルギーを育む時代。」と強調しました。

以下、それに関わる出来事をご紹介します。

#### 選手村の近くで

連合結成30周年となる節目の大会を終え間もない昨年11月。2020東京オリンピック・パラリンピックの選手村近くの晴海。世界のアスリートが集うより一足早く、全国の構成組織、地方連合会などから150名のユース(若者)が参集。「2019連合ユースラリー」が開催されました。2日間のプログラムの中で私が受け持ったのは、参加者との「フリートークセッション」。私は冒頭、「これまでは、膨大な情報を蓄積す

る時代。これからは、蓄えた情報を掛け合わせ、社会課題の克服に活かす時代。」「労働運動を支えてきた先人たちは異なる新たなテーマへの挑戦が始まる。」「皆さんは、運動の既成概念を壊し、新たな時代を創る一人ひとりだ。」と口火を切りました。

#### 悟られないよう身構える

続いて進行係が、ユースのみんなに向かって「さあ、事務局長に尋ねたいことある?」と呼びかけコーナーを進めていきます。私の方而言えば、仕込んできたメッセージを発し終え、「さあ、こい」とスタンバイ状態。日々、直面する働き方ハラスメントか、さもなくば、政治でくるか。悟られないよう「返球」に困るような「直球」の質問を頭の中で描いていました。ほどなく、会場の中ほどで手が上がりました。「はい。きた。」と心の中で私。マイクが手元に届き彼が発したのは、「好きな色は何ですか?」でした。

#### これこそ、「ザ・フリートーカー」

「それ?」「そこから?」とひとり私。当日の私は、上から下まで青づくめ。「んー。この格好で赤が死ぬほど好きとは言わないかな。普通。」と返しましたが、でもこれがフリートーカー。一気に会場が和みました。既成概念を壊す時代が来たと言いながら、勝